

令和5年8月31日
福岡県災害復旧・復興推進本部会議

福岡県の梅雨期間の概況、 今後の見通し

福岡管区気象台
気象防災部 予報課

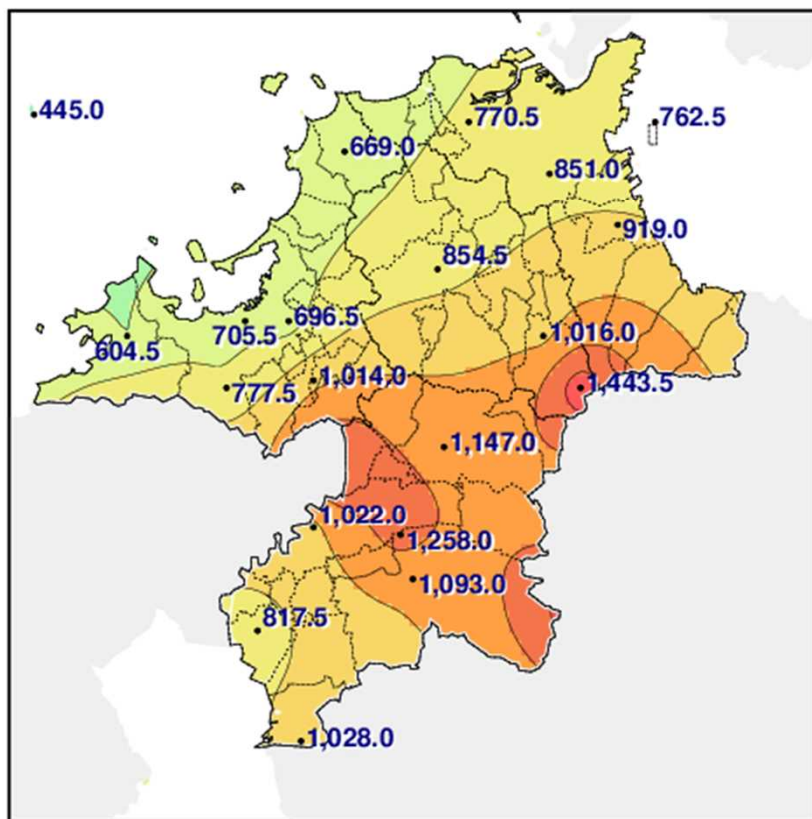
令和5年 梅雨の梅雨入りと梅雨明け

((九州北部地方))

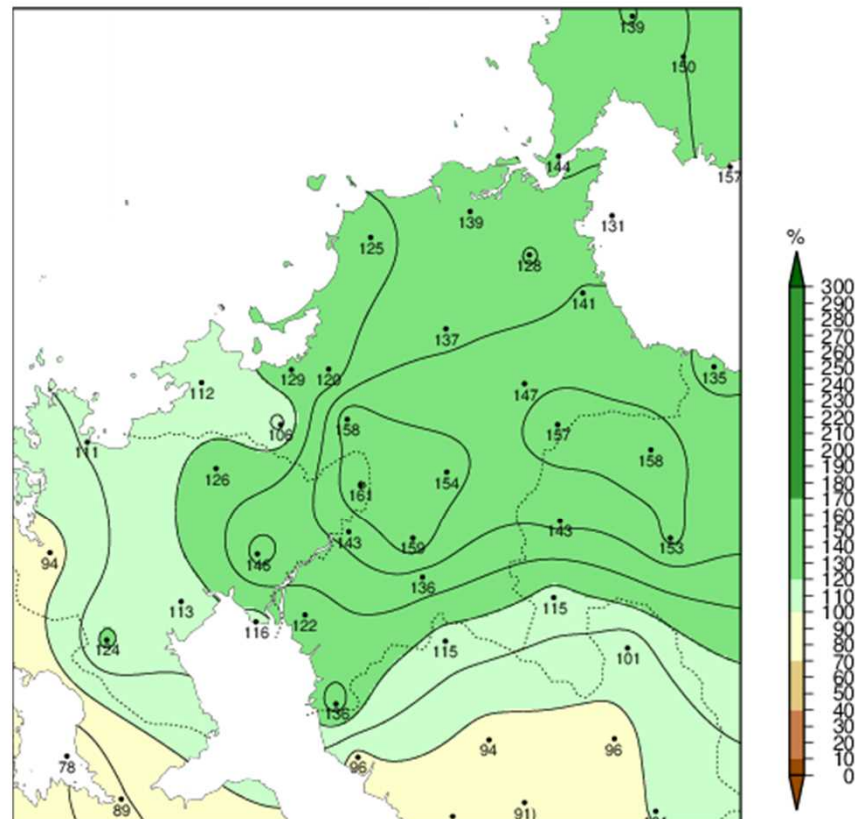
- **梅雨入り 5月29日ごろ** 【確定値】
 - 平年 (6月4日ごろ) より6日早く、
昨年 (6月11日ごろ) より13日早い。

- **梅雨明け 7月25日ごろ** 【確定値】
 - 平年 (7月19日ごろ) より6日遅く、
昨年 (7月22日ごろ) より3日遅い。

令和5年 6月から7月の降水量



6月から7月の降水量の分布図



6月から7月の降水量の平年比

地点名	降水量の合計 (ミリ)	期間の平年値 (ミリ)	平年比 (%)	地点名	降水量の合計 (ミリ)	期間の平年値 (ミリ)	平年比 (%)	地点名	降水量の合計 (ミリ)	期間の平年値 (ミリ)	平年比 (%)	地点名	降水量の合計 (ミリ)	期間の平年値 (ミリ)	平年比 (%)
小呂島	445	—	—	行橋	919	652	141	太宰府	1014	640.6	158	久留米	1022	716.4	143
宗像	669	533.6	125	飯塚	854.5	625.6	137	添田	1016	691.8	147	耳納山	1258	792.8	159
八幡	770.5	553.8	139	前原	604.5	538.2	112	早良脇山	777.5	730.9	106	黒木	1093	802.2	136
空港北町	762.5	581.9	131	福岡	705.5	546.2	129	朝倉	1147	744.6	154	柳川	817.5	672.1	122
東谷	851	667.2	128	博多	696.5	582.4	120	英彦山	1443.5	920.8	157	大牟田	1028	758	136

6月から7月の降水量及び平年値、平年比表

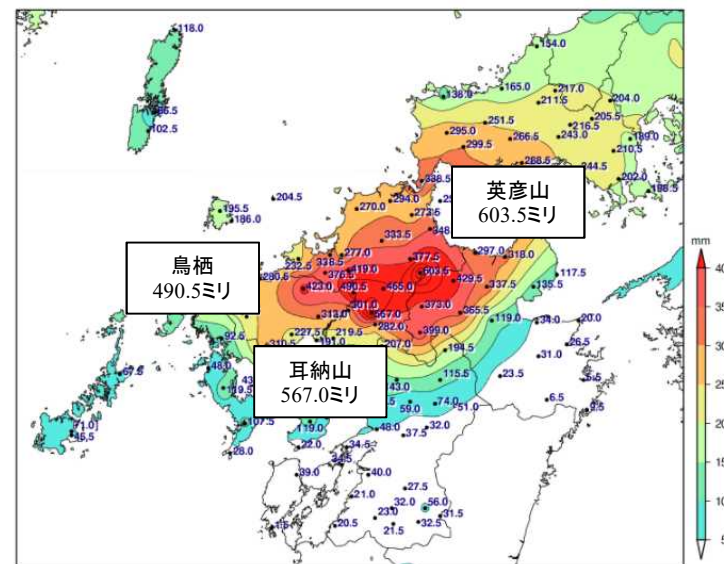
※観測値の集計:2023/6/1から2023/7/31の日降水量の合計
※平年値の集計:2023/6/1から2023/7/31の日平年値の合計

※**緑色セル**は平年比の上位5地点を色付け **3**

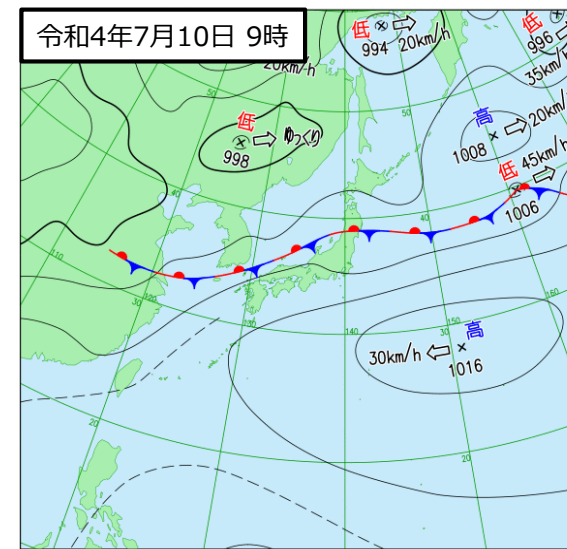
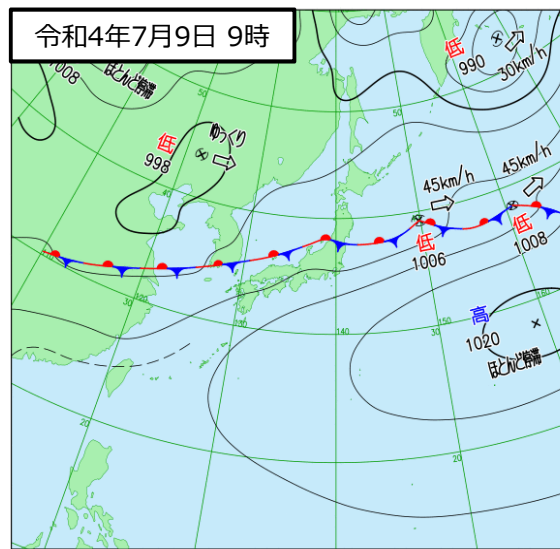
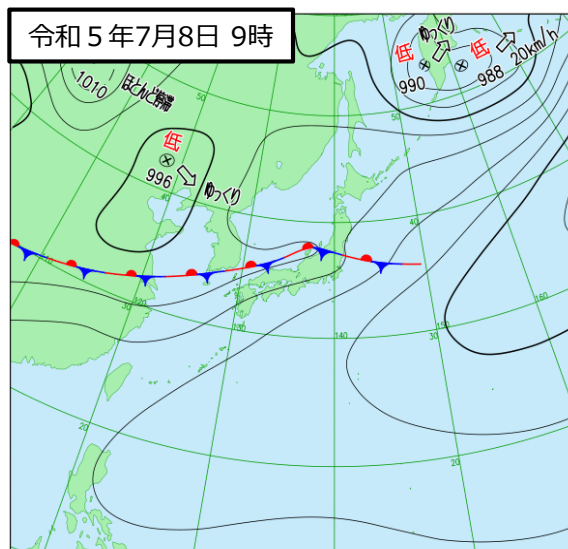
令和5年7月7日から10日にかけての大雨

線状降水帯が発生して、筑後地方を中心に大雨

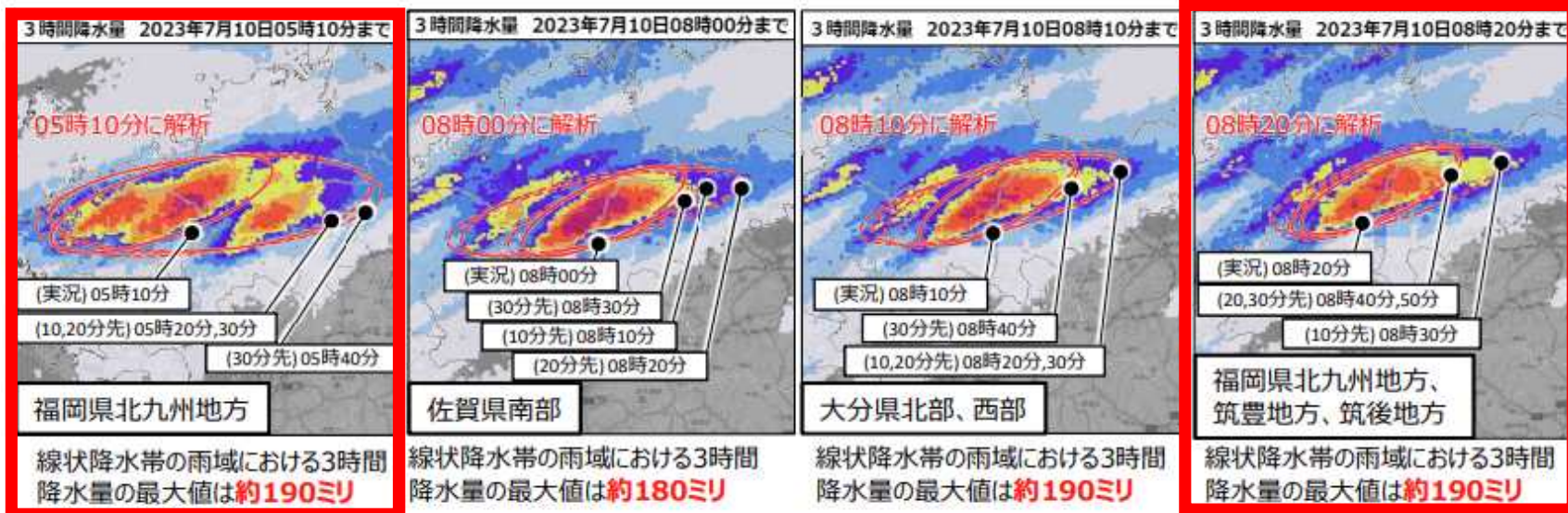
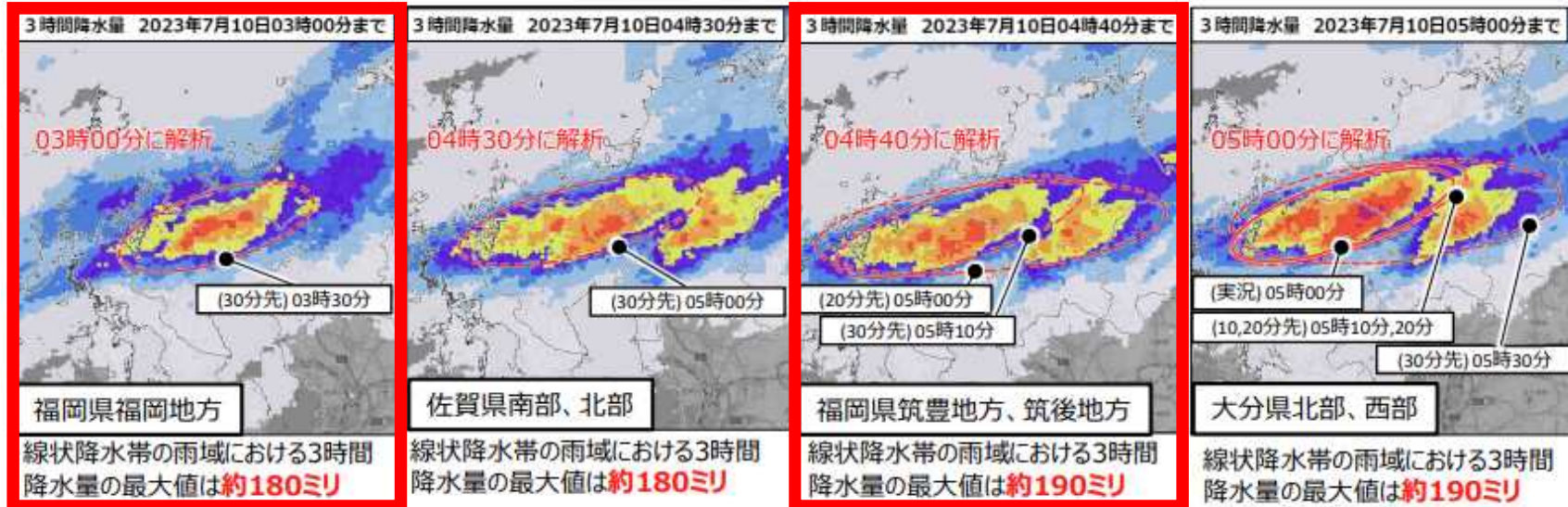
- ◆ 7月7日から10日にかけて、華中から対馬海峡付近に停滞する梅雨前線に向かって太平洋高気圧の縁を回る暖かく湿った空気の流れ込みが続いた。福岡県や大分県に大雨特別警報を発表するなど記録的な大雨となった。
- ◆ 10日03時09分～08時29分にかけて福岡地方、筑豊地方、筑後地方、北九州地方に線状降水帯が発生したため、「顕著な大雨に関する気象情報」を発表（次頁で説明）。10日朝、福岡県内6市町村に大雨特別警報を発表。
- ◆ この大雨では 英彦山で7月10日に361.5ミリの日降水量を、耳納山で7月10日に376.0ミリの日降水量と7月10日 9:15に91.5ミリの1時間降水量を観測し、当該地点の極値を更新した。



降水量分布（2023年7月7日00時～10日24時）

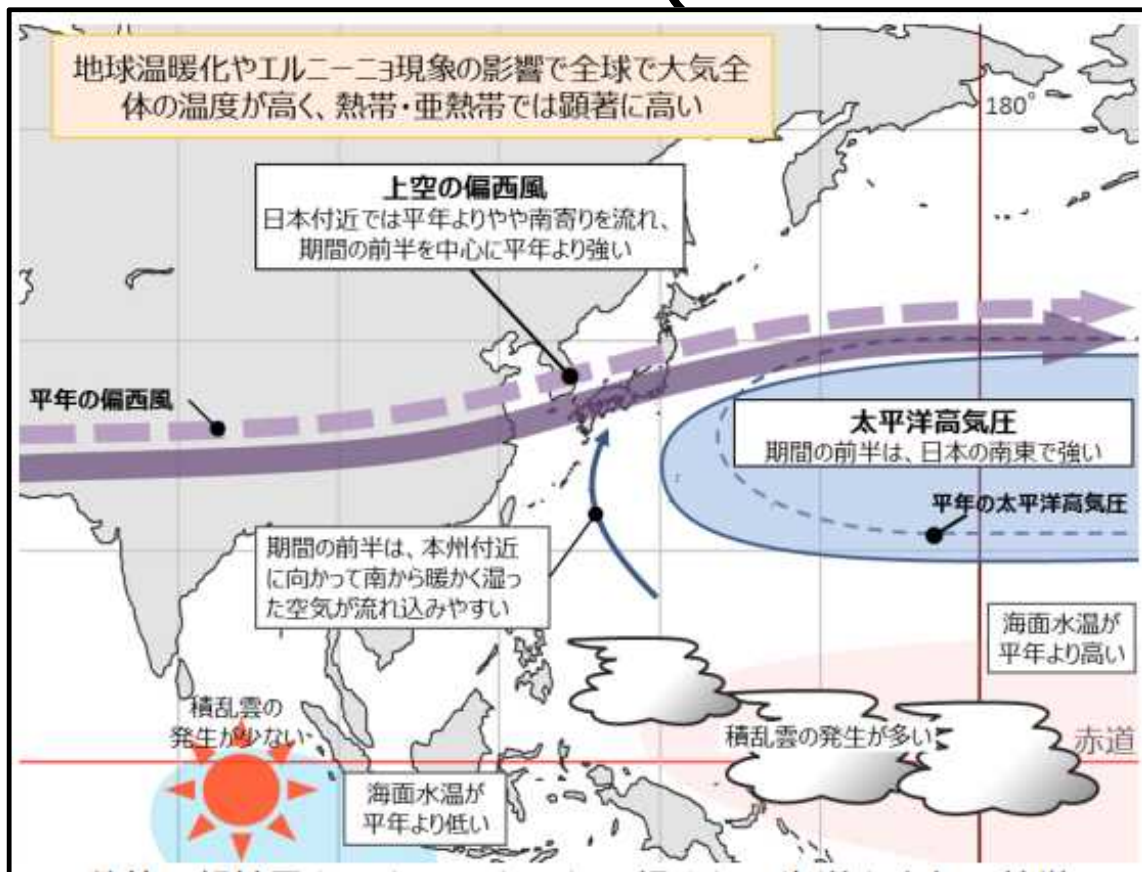


線状降水帯の解析状況



九州北部地方の3か月予報 (8月22日発表)

海洋と大気の特徴(9~11月)



全球の大気

- ✓ 地球温暖化の影響等により、大気全体の温度が高い。

熱帯域

- ✓ 積乱雲の発生がフィリピンの東から西部太平洋赤道域で多い。

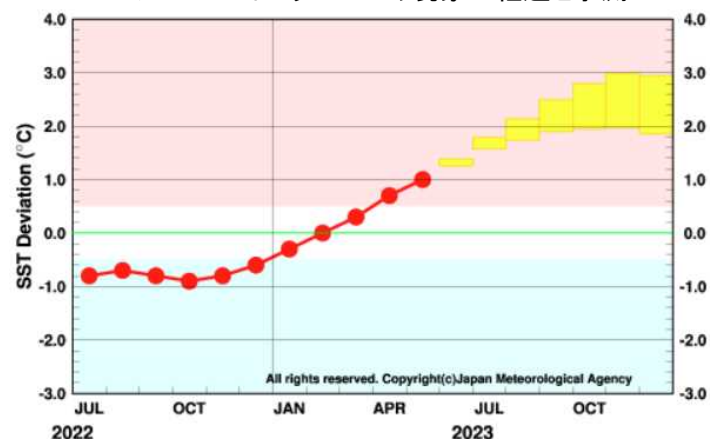
上空の偏西風

- ✓ 日本付近では平年よりやや南寄りを流れ、期間の前半を中心に平年より強い。

エルニーニョ監視速報 8月10日発表

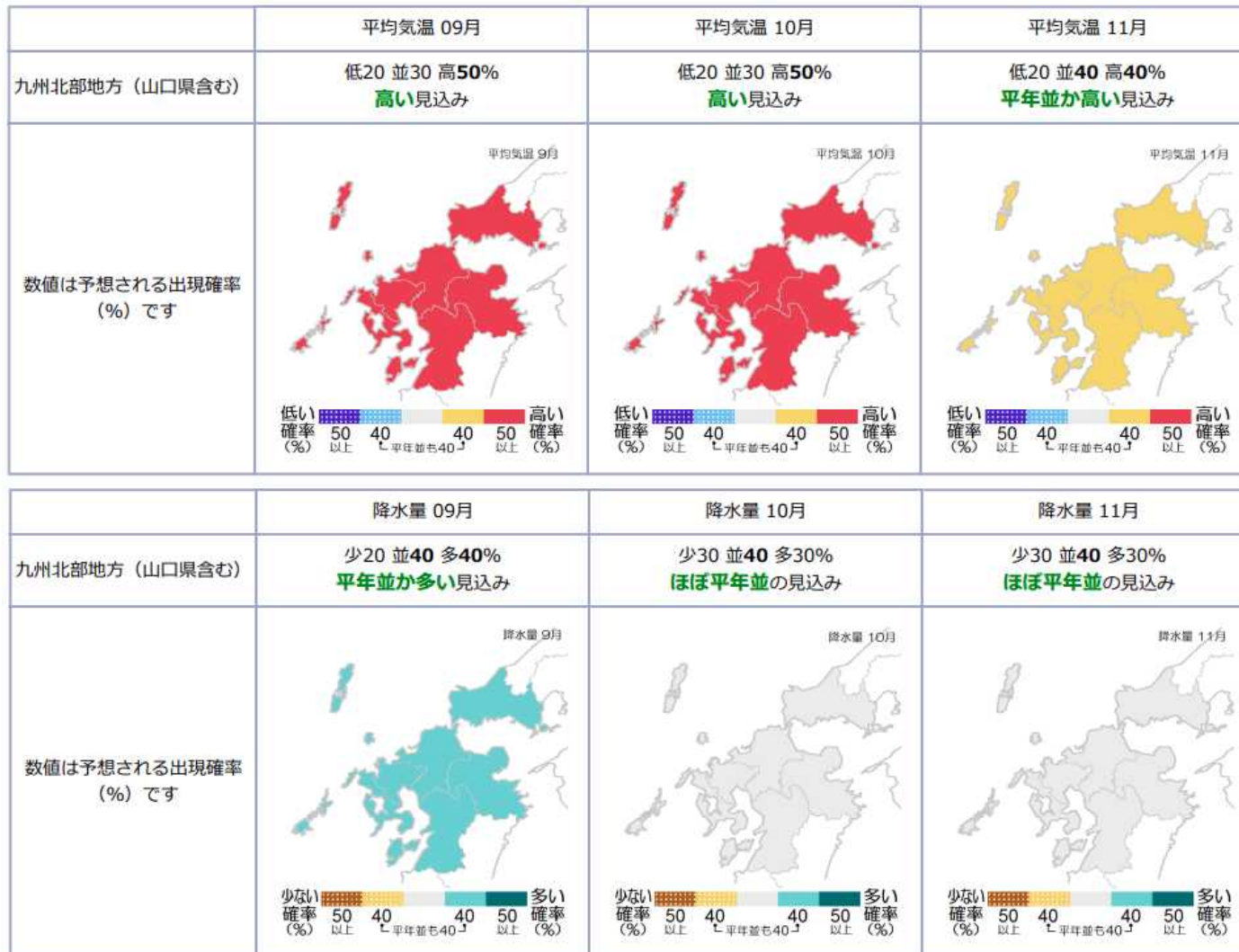
- 春からエルニーニョ現象が続いている。
- 今後、冬にかけてエルニーニョ現象が続く可能性が高い(90%)。

エルニーニョ/ラニーニャ現象の経過と予測



向こう3か月の天候の見通し (8月22日発表)

- 向こう3か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、高いでしょう。
- 向こう3か月の降水量はほぼ平年並の見込みですが、9月は前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年並が多いでしょう。



地方ごとの台風接近数の平年値

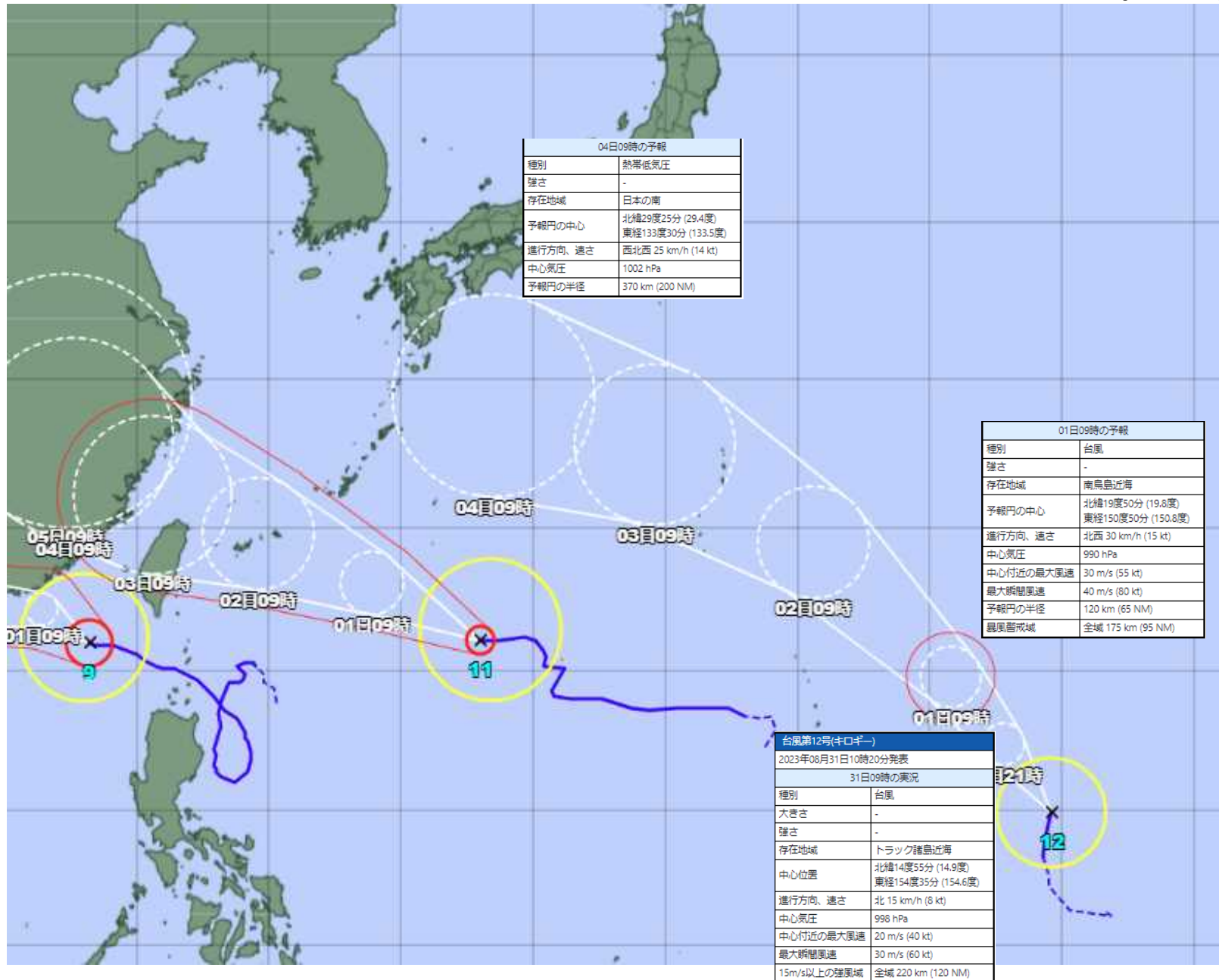
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間
沖縄地方					0.0	0.4	0.6	1.5	2.2	1.9	1.1	0.3	0.0	7.7
九州南部・奄美地方	奄美地方				0.0	0.2	0.4	0.7	1.1	1.3	0.7			4.3
	九州南部				0.0	0.1	0.4	0.7	1.0	1.2	0.5			3.9
九州北部地方 (注1)					0.0	0.1	0.3	0.8	1.1	1.1	0.4			3.8
四国地方						0.1	0.3	0.7	0.9	1.0	0.4			3.3
中国地方 (注1)						0.1	0.2	0.6	0.8	1.1	0.3			3.0
近畿地方						0.1	0.3	0.6	0.7	1.1	0.7			3.4
東海地方						0.1	0.2	0.6	0.8	1.2	0.7			3.5
北陸地方							0.2	0.5	0.7	1.0	0.4			2.8
関東甲信地方	関東地方 (注2)、甲信地方					0.0	0.2	0.4	0.8	1.2	0.7			3.3
	伊豆諸島、小笠原諸島				0.1	0.4	0.4	0.7	1.0	1.5	1.3	0.3	0.0	5.4
東北地方						0.0	0.2	0.3	0.8	0.9	0.5			2.7
北海道地方							0.1	0.2	0.7	0.7	0.2			1.9

(注) 地方の区分については、気象庁が天気予報等で用いる予報用語の「[地域名](#)」をご覧ください。

(注1) 「九州北部地方」は山口県を含み、「中国地方」は山口県を含みません。

(注2) 「関東地方」は伊豆諸島および小笠原諸島を含みません。

台風第12号の進路予想について



- R5年の梅雨期間期間の降水量（6~7月）については、県内すべての地点で平年を上回る雨量となった。また、7月7日から10日にかけては、線状降水帯の発生や大雨特別警報も発表された。

特に7月10日の雨量に関しては複数の観測地点で極値（履歴1位）を更新するなどの大雨となった。

- 向こう3か月の予報では気温は高く、降水量は、ほぼ平年並の見込み。
- 台風については、平年でみると10月までは九州北部地方への接近の可能性はあり、引き続き注意が必要。

引き続き、最新の気象情報を利用して防災活動をお願いします。